

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101825		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風		
所在地	千葉市中央区大森町250-1		
自己評価作成日	平成22年2月21日	評価結果市町村受理日	平成22年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様一人ひとりの希望に沿い、外出、外食する機会を多く設けている。また、季節ごとの行事に力をいれており、地域の方々や御家族様を交えて参加していただいている。近隣の小学校、保育園との交流もあり、地域交流を通して御利用者様には、日々の生活に張りを持って生活していただいています。その人の、生活のリズムに合わせて、暮していただけるように支援しています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念は入居者と一緒考えた「希望の実現」であり、一人ひとりの希望の実現に向け、全職員は日々取り組んでいる。毎日の散歩のほか、月1回の外食や季節行事等で外出の機会を多く設けている。地域との交流にも力を入れている。毎日の散歩で挨拶を交わしたり、近隣から野菜のお裾分けがあったりと普通の近所付き合いをしており、ホームの納涼祭には近隣住民が参加し、手伝ってくれるまでになっている。また、近隣の保育園や小学校との交流もあり、運動会などの行事を見学に行くほか、園児や児童がホームを訪れたりしている。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価(すずらん)および外部評価結果(全体ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、全職員で共有しミーティングの際、意識付けを行っている。	法人の理念は月1回のミーティング時に唱和している。また、入居者の思いや希望を聴き取り、作り上げた「希望を実現しよう」のホーム独自の理念があり、全職員は理念に沿った日々のケアに努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣り近所の人と気軽に声をかけあったり、保育園、学校等の地域の行事にも積極的に参加している。	自治会に加入し、地域の奉仕作業や祭りに参加している。ホームの納涼会には近所の人々がテントのセッティングのほかイベントの手伝いなどの協力が得られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、行事等に係りながら、認知症ケアの啓発に努めている。また、実習生の受け入れに係った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事故や行事報告などを行い、参加された方々から意見アドバイスをもらうようにしている。また、メールでの意見、要望交換も行っている。	運営推進会議は年4回行われ、町内会長、介護相談員、多数の入居者家族が参加している。行事や事故報告のほか、ホームからのお願い事項、意見交換などを行っている。地域包括支援センターの職員は開催の曜日により、参加が得られない時もあり、曜日設定は今後の課題の一つでもある。	運営推進会議には行政を含め多方面からの参加を得るとともに、ホームで抱えている課題などを話し合い、サービスの質向上に繋げる取り組みに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の月1回の訪問があり、市の担当者としては、連絡を密に取り合い細かな報告をしたり、アドバイスをいただいている。	市の高齢施設課の担当職員とは夜間の対応や、職員の配置に関する相談など連携を取っている。また、月1回介護相談員の受け入れでは入居者の状態変化の気付きを得ることもある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	御利用者様が外に出たいときに出れるような体制作りに取り組み時間を決めて鍵を開ける時間を作っている。	各ユニットの入り口は自由に出入りができるようになっている。2階ユニットは階段があるため、安全を優先し、ドアにチャイムを付けている。また、玄関の扉は暗証番号を入力しないと開かない状況であるが、入居者が出たいときには職員が寄り添って外出をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的な研修の参加を促し事業所内で「高齢者身体拘束防止委員会」を立ち上げている。		

大森台ケアセンターそよ風 自己評価(すずらん)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となる御利用者様には、関係機関への橋渡しをさせていただいた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて契約書、重要事項を読みあげ、細部についても理解納得を得るよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や御家族様の来所時に意見、要望を聞き、会議を開催し、職員全員に周知している。	運営推進会議や面会時、ホーム行事で来訪した際に意見、要望を聞いている。また、定期的に送付している書類の中にも気軽に意見、要望を言って欲しい旨を伝えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際全職員から意見を聞いている。また、年2回個別面談を行うようにしている。	月1回のミーティングや勉強会などで意見を聴く場を作っているほか、年2回センター長との個別面談でも機会を設けている。職員間でも気が付いたことは互いに注意し合い、より良いサービスに繋がるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場作りのために環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に内外の研修を促し、自己のスキルアップを高めるように努力している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の他センターとの勉強会や交流会を行っている。また、外部の訪問看護ステーションの看護師による勉強会の依頼などを行っている。		

大森台ケアセンターそよ風 自己評価(すずらん)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス担当者会議に出席していただき、御利用者様の要望をお聞きし、職員もその都度、希望を実現できるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン更新時や御家族様の来所時に希望や要望を伺い、御家族様にも安心していただけるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は常にニーズを見極め必要なサービスを取りいれるように話し合いを行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様から人生の先輩としての意見を伺い生活の中での知恵等を教わる関係が築けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の思いによりそいながら、日々の出来事の共有に努めている。また、御家族様に相談し、一緒に考えながら支援できるように心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容院へ行かれる御利用者様もおり、また、友人等の来客はいつでも歓迎し馴染みの環境が途切れないようにしている。	入居する前に住んでいた家の近所の人尋ねて来ることがある。猫が大好きな入居者には定期的に知人が猫を連れホームを訪れている。また、知人への手紙や電話の連絡など馴染みの人との関係が途切れないよう支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から、席の配置や会話の内容に気を配り、御利用者様同士の関係が円滑になるように職員が働きかけを行っている。		

大森台ケアセンターそよ風 自己評価(すずらん)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様の了承を得て、他施設へ入居され方に面会に伺ったり、電話のやりとりをしながら、関係の維持を心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望が実現できるように努めている。	日々の会話の中で思いや意向を掴むほか、表出困難な人にもセンター方式によるアセスメントシートを活用し、その人らしい生活を支援するよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔住んでいた場所にドライブに出かけたり、馴染みの人との手紙電話での交流が保てるように心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックはもちろん、日々の体調管理や、ちょっとした変化に気づけるようなチームケアに努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見を尊重し御家族様や時にはドクターを交えての担当者会議の開催をしている。	入居者、家族、居室担当、ユニットリーダー、計画作成担当者などが参加する担当者会議を開催し、介護計画を作成している。出席できない家族には毎月送付している入居者の記録を基に意見を聞いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を利用し、その日の様子を記入している。気づいた点は、申し送りノートを活用し、すぐに全職員が情報の共有ができるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問医療、訪問看護との連携を密にしている。		

大森台ケアセンターそよ風 自己評価(すずらん)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、警察、自治会など地域の人々の力を借りる取り組み作りをしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様が希望されるかかりつけ医になっている。基本的には家族同行で受診対応していただいております。都合がつかないときは職員が代行させていただいております。	多くの入居者が従来からのかかりつけ医を受診している。また、月2回の往診医や訪問看護ステーションを利用している人もいます。受診は基本的に家族の協力で行っており、その情報を家族と職員で共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など気になる点がある時は訪問看護師や往診の先生に相談しアドバイスをもらい適切な医療を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はこまめに病院を訪れ医師、看護師などと情報交換を行い、状況の把握に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御利用者様、御家族様の希望に沿えるように早い段階で話し合う場をもうけ、医療機関と連携がとれるような体制づくりに努めている。	昨年、家族の希望で初めての看取りを行ったが、自らシフトの変更を申し出て担当を希望する職員も出るなどホーム全体で取り組み、家族からは感謝の言葉をもらった。	契約時に重度化や看取りについて説明し同意は得ている。家族とはその都度話し合いも行っており、看取りの希望も多い。昨年の経験も活かし、ホームの方針を明文化するとよいと思われる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に応急手当の講習会を受講してもらい、全ての職員が対応できるよう、努めている。また、マニュアルを作成し、いつでも見れるところに、保管している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。また、水消火器の使用方法についても学び、災害時に備えている。	年2回の防災訓練を実施し、1回は昨年の課題であった夜間を想定した訓練を行った。又、元消防士であった職員から消火器の使い方や避難方法のアドバイスも受けた。備蓄品も確保しており、スプリンクラーは今年度設置する予定である。	2階建てのホームであり、緊急通報や入居者の避難方法、近隣の応援態勢などのほか、運営推進会議でも地域の協力が得られるよう自治会への働き掛けが必要と思われる。

大森台ケアセンターそよ風 自己評価(すずらん)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に丁寧語での対応を心がけ、人生の先輩に対する言葉かけをするように徹底している。特に、トイレ、入浴の際は、プライバシーを配慮し対応している。	ケアに当たり職員は常に「自分に置き換えて考えてみる」を念頭に、入居者一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。また、個人情報についても秘密保持や情報管理が徹底されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択や飲み物の希望等選べる、自己決定をして頂くよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様の意見を尊重し、個別性のあるような日々が送れるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め、化粧品を購入したり、訪問利美容の活用や、美容院、理髪店への外出を行う。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様と、食事の準備、片付けを行っている。	食材は業者委託をしているが、ユニットごとに味付けなど工夫している。入居者は盛り付けや下膳や皿洗いなどを出来る範囲で手伝っている。また、月1回の外食や出前も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の状態を把握し、減塩、刻み、ミキサー食での対応をしている。食事量、水分量は記録に残している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底を促し、訪問歯科による口腔ケア診療も行っている。		

大森台ケアセンターそよ風 自己評価(すずらん)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを掴むことにより、その人に合わせて誘導し尿意のない人でもできるだけ、トイレで気持ちよく排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンに合わせ誘導している。尿失禁を確認したら早めの声かけをするほか、水分摂取量もこまめにチェックしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には食物繊維を多く取っていただくように工夫したり、散歩等によって身体を動かし、腸の動きをよくするように努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日入れるような体制をとり、好きな入浴剤を選んでいただいて、ゆっくり入浴できるようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中散歩や体操等で適度に身体を動かすことにより、安心して、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬受診記録の作成をし、薬表とともに保管している。職員は、御利用者様の細かな状態の把握に努め、薬局との連携も密にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族様の了解のもと、喫煙されたり、お酒を飲まれる方には、居酒屋への外出し、普段とは違った雰囲気も味わっていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見の時期などには、行政から借りれるバスを使用し、御家族様やボランティアの協力を得て、外出を行っている。	散歩は車椅子の入居者も含め小員数で毎日出かけている。花見、イチゴ狩りなどの季節の行事や回転寿司やホテルのバイキングなどの外食で、年間を通して外出の機会を多く作っている。お酒を嗜む入居者には居酒屋に一緒に行くなど個別の支援も行っている。	

大森台ケアセンターそよ風 自己評価(すずらん)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をされている方もいらっしゃり、買い物に行かれた際は、できる限り御利用者様に支払いをしていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられる環境にし、暑中見舞いや年賀状作成も行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを心がけている。御利用者様が安全で使いやすい物を配置している。	玄関前には花を絶やさないようにしている。また、リビングや食堂、廊下には職員と一緒に作成したカレンダーや季節を感じさせる飾りつけがされている。1階のソファは、一度座った入居者が立ち上がるのが難しいことから、買い換えを予定している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にベンチを置き、くつろいだり、談笑できるスペースを設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を使用していただいたり、馴染みの人形やタンスの設置によりその人らしい空間を備えるような支援をしている。	馴染みの筆筒、ベッド、ドレッサーなどが持ち込まれ、壁には家族やペットの写真等が飾ってある。布団でしか寝られない入居者には、床に畳を敷いて、入居前の生活がそのまま続けられるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に考慮し、必要なところには手すりを設け建物内は、バリアフリー構造になっている。		